

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん 1階		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡りが訪れ秋には鮭が遡上する等自然に恵まれ四季を感じ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くの公園で近所の小さなお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。また、ご家族との関係作りを大切に、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある2階建2ユニットの事業所で開設20年目を迎えている。1階に居室サービス事業所が併設されている。近くに小川が流れ、緑ある遊歩道は憩いの場所となっている。居間は彩光が良く、廊下には利用者の手作り作品を掲示しほのぼのとした空気感がある。浴室は広めで安全な入浴ができるよう床は滑りにくい素材を用いている。職員の声かけや歩く音も落ち着きがあり、利用者の環境の一部としての意識が感じられるが、業務多忙中の適正について確認に向けての意向を示すなど余念がない。利用者と職員が毎日、午前中に40分近く歌唱や体操を行っている。調査時に聞こえてきた合唱は次々と暗譜で楽曲を歌い上げ、生き生きと力強くもあり見事に感じられた。その後の食事風景では口の動きが活発で誤嚥防止に繋がりを効果を上げている様子も窺える。レクリエーションは頭の体操と称した活動や紙芝居、運動会、夏祭りなど利用者にとって楽しみとなるよう工夫している。食事作業に時々に参加し昔取った杵柄を披露し、これらの日常風景はだんらん新聞で家族へ発信している。新聞や雑誌を見ながら職員と談笑したり、1人静かに図鑑を眺めたり、居室では得意な裁縫でウエス作りをしたり、好きな時に趣味のプロレス観戦を動画共有サービスで見ることができるよう環境整備を行うなど、1人ひとりのこれまで馴染んできた事を継続できる支援に努めている。家族からの評価も高い。利用者の人生が尊いものとなるよう力を注いでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・スタッフ理念をステーションに掲げ職員全体で共有し利用者様が望む生活を送れるようにチームで話し合いケアに繋げている	だんらん理念には地域密着型サービスの意義や役割が盛り込まれており、パンフレットと事業所内へ掲示している。職員不足で業務多忙にある中、どのように理念の実践に努めていくか日々模索している。	理念の一部にある「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」では、利用者支援のみならず、職員同士においても当てはめ、構築していきたい文言としている。理念が関係者全体のものとして成長するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会に入会し、町内会長をはじめ回覧板を通し、地域活動の情報を得たりしてコロナの影響にて看護実習生の受け入れのみしか出来なかった	地域包括支援センターの依頼により利用者の手作り作品の図書館展示を行ったり、寿司店とは、行事の際に食べやすい形態や食材の協力が得られている。看護実習生の受け入れでは利用者の生活に活気がみなぎるものとなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、ホームでの様子・取り組み・工夫等も報告し意見を頂いている(コロナの影響にて書面のやり取りで行っている)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で事業所内での開催で対応している。議事録等提出し情報交換をしサービスの向上に繋げている	書面開催で運営している。利用者状況や活動状況、感染症対策、事故報告、転倒防止についてなど、適宜資料を添え報告している。事故報告では事業所の現状と今後の対策や改善事項を詳しく載せている。	書面開催にあっても双方向のやり取りとなるよう、議事や運営への意見等を聴取する仕組み作りに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やネットワーク会議等に市の担当者が参加していたり、市より連絡があった際など、事業所・利用者様の状況報告をし協力関係を築いている(コロナの影響にて書面のやり取りで行っている)	市の介護福祉課とは、介護保険制度に係る案件の指導や助言を得て適正な運営の維持に向けている。また、物資の提供案内を受け活用に至り、利用者の生活支援に反映した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を設置したり、積極的に研修に参加している。玄関の施錠も夜間以外行っていない。やむを得ずセンサー等を使用する場合は家族の理解と了承を得て承諾書を頂いている。またケアプランにも入れ分りやすくしている	身体拘束等適正化のための指針を定め、3か月に1度身体拘束適正化委員会を開催している。これらに係る研修は年度計画の元に委員会内で行う事としている。今年度は、高齢者虐待防止法、施設における高齢者虐待の現状と対応、不適切ケア等について資料配布形式で内部研修を行い意識づけに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止研修資料を基にスタッフ全体で虐待について正しく理解できるようにし常日頃より不適切なケアについて話し合いがもたれてる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会等の参加もしており学ぶ機会を増やしている。また、ご家族様にも家族様向けの研修案内等を渡し学ぶ機会の場を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定等の際は細かい点まで説明を行いご家族様に確認をしながら理解・同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には訪問時に問いかけ・出された意見や要望等はすぐに話し合い反映させている	利用者から雪に触りたいの訴えには職員と一緒に雪だるまを作ったり、川を見に行くなど個別の外出の要望に応じている。家族から利用者の法事出席の相談を受け、正装着衣支援や移送サービスを行った。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話で出された意見は日々の業務の中で個別に話しをし、提案をケアや運営に反映させている	現在、スタッフ会議の時間が取れない状況であり、朝夕の申し送りや日々の中で、またグループラインを活用し職員の意見や相談に応じている。細かなシフト調整を行い職員の働きやすい環境を整えている。ユニットごとの管理体制の見直しに着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人の努力や実績を把握しやりがいがあるよう工夫したり環境面や条件の整備にも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響にて外部研修に参加する事が難しくなったが、働きながらトレーニング等を意識し努めている。少しずつ研修も増えてきているので状況を見ながら参加出来るようにしていく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHでネットワークを作りサービスの質を向上出来る様勉強会や情報交換を行う取り組みをしている。現在はコロナの影響にて難しくなっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があるときは本人と面談し心身の状態・本人の思いを聞き、職員も本人に受け入れてもらえるように関係作りをしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前にご家族様にホームを見学してもらい不安なことや困っている事を聞き解消出来る様に努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用前に生活状況の確認・日常生活の様子を聞き必要な支援が出来る様に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆様が主役であることを理解した上で双方が尊重し合える関係を築くよう努めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子・受診結果等を細かく伝えるようにし、そこから気付いたことを日々のケアに取り入れ活かせる様努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に希望をとり聞いているもコロナの影響にて外出も控えており対応しきれないこともあった	家族との面会は玄関先での対応である。家族との電話の取り次ぎや家族に会いたい希望へは連絡をとり面会に訪れてもらえるようにしている。利用者の大切な家族の法事に出席できるよう支援を行った。かかりつけ医の病院が馴染みの場所である利用者が多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の思いや個性を尊重しながら一緒に協力し合っている。又、孤立しないよう声掛け等にも重点を置き対応している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の際や、サービス利用終了後も相談を受けたり関係性が切れぬよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い・希望をできる限り把握するよう努め、本人の本位に沿えるようにしている	日常会話や利用者の生活スタイルにより本人の思いや意向を確認したり、テレビや紙面など視聴覚により希望の選択肢が広がるようにしている。把握した内容は適宜介護計画へ反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のファイルを用意し、センター方式を活用しご本人・ご家族に確認しながら作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を観察し、介護記録やカンファレンスを通して全職員が把握出来る様にしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアのあり方について、スタッフ会議等で検討している。また業務中の気づきも反映し介護計画を作成している	利用者担当職員が中心となって本人像を分析しモニタリングを行い、サービス担当者会議で今後のより良い支援を検討して介護計画を策定している。アセスメントの機能を活かした運用について検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に沿った記録を個別に記載し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ送迎を行ったり、既存のサービスに捉われない様柔軟なサービスが出来る様にしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響の為外でのイベントや外食は控えているが、室内のレクで楽しめる様、支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	感染者数や本人の状況により電話受診で対応している事もあるが、出来るだけ受診するよう心掛けている	ほとんどの利用者が利用開始前のかかりつけ医でもある協力医療機関に継続受診している。通院受診は、医療機関により家族の協力を得ている。家族との医療情報の共有に努め、その都度個別の受診記録簿に記載している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化がある時は訪問看護に連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様の支援に関する情報を病院に提出している。病院関係・ご家族様と情報交換し早期退院に繋げられるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、ご本人・ご家族様と十分に話し合い方針を共有し医療機関とも連携しながら取り組んでいる。又、本人・家族の意向によっては看取りの受け入れも行っている	「医療連携・重度化に関する指針」を契約時に説明している。医師の判断に基づき家族の意向を確認し、今後の方針を取り決めている。昨年度、訪問診療医と連携し看取り支援に尽力した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響で外部研修に参加できない状況であったが、業務中の事故等職員と対応方法を考え実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施し報告をおこなっている。今年度も外部の参加を要請せず行った。又、地震・風水害のマニュアルを用意し話し合いを行っている	今年8月と11月に昼夜を想定した火災避難訓練を実施し、ダミーを用いた搬送訓練を交えて行った。地域住民の参加は見送っている。災害備蓄品を確保している。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定中である。緊急時等の移動経路に物品が置かれ支障をきたす恐れがある。	自然災害の訓練等に期待したい。BCP策定では市や消防署から最新の情報や知見、運営推進会議で報告することにより新たな視点を確認できる事も考えられる。今後の策定に向け期待したい。災害時・緊急搬送時の経路確保が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の際にはご本人の気持ちを大切に羞恥心にも気を配り安心して頂ける声掛けをするよう努めている	職員は穏やかな対応で優しく話しかけている。プライバシーに配慮して、個人記録は各ユニットで他者の目に触れない場所で管理している。	言葉のトーンや語調について利用者の尊厳に対して適切か否かを今一度、事業所全体で確認する意向であるので取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせてご本人の思いや希望を感じ取ったり傾聴し自己決定しやすい様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしそれに合わせ対応している。意思確認が困難な方には入浴等職員側で決定する事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりにその人らしい身だしなみが出る様支援している。又、月1回訪問美容にお願いしヘアカット等対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや食べやすい工夫し、食事準備や片付けも状態に合わせて一緒に行っている	毎月の行事食では、手作りのコロッケや焼きそば、利用者自身で盛り付けるプリンアラモードやパフェなど趣向を凝らし楽しめるようにしている。誕生日は事前に食べたいものを確認し提供している。寿司店の手毬寿司も喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や味付け等も個々にあわせ対応しており好みや食べやすい物の提供を心がけている。又、食事量・水分量も記録に記載し把握・確認を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で行える方へは声掛け見守りを、行えない方へは介助にて行い誤嚥防止に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々のパターンを把握、又表情や動作を見ながらスムーズに排泄が出来る様支援している。オムツ・パットについても職員間で話し合い検討している	職員は利用者の排泄パターンや兆候を把握している。全員がトイレの便座に腰掛け自然排泄できるようトイレ誘導している。職員は利用者の身体を支え本人が自力でトイレまで歩いて行けるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態(日時、形状等)を記録し十分な水分補給や毎日の体操を行い排便を促すようにしている。夕食時ヨーグルト+オリゴ糖を提供しスムーズな排便になるように努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を確認し無理せず入浴が行っている。浴中もコミュニケーションをとり楽しいひと時になるよう支援、また浴槽の出入りも安心して頂ける様慎重に行っている	日曜日以外の午後を中心に1人週2回、広い浴室で、職員と笑い話をしながら楽しく入浴している。入浴が苦手な場合は無理強せず、本人のタイミングで入れるよう支援している。声かけから入浴まで同じ職員が対応し安心感に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し生活リズムが崩れないよう支援している。夜間安眠できるよう寝具、室温、湿度にも気を配り対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人1人のファイルに服用している薬を記録しておりいつでも確認出来る様にしている。変更があった際はマーカーにて分かり易くしたりと工夫している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎にレクを企画したり、季節に合わせた飾りつけなど工夫している。1人1人の楽しみを聞き入れる様対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出を控えているが、散歩やドライブなど希望に合わせて支援している。職員不足などで対応しきれてはいない	全員が揃っての外出は未だ難しい状況にある。個別でドライブに行ったり、近くの川や公園まで散歩に出ており、雪に触れたい希望には子どもの頃の懐かしい遊びを取り入れ感触を味わっている。通院時に病院の花壇や桜を見て帰ってくることも楽しみになっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設管理にて金銭を管理している。自立している方へは一緒に買い物に行った際、支払いなど見守りしながら行う事もある			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話したい場合は声掛けいつでも電話をしたり出来る環境を作っている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎のレクに合わせて季節に因んだ装飾をリビングや廊下にし、季節感を楽しめるようにしている。また、混乱を招くような飾りつけは行わないよう心掛けている	共用空間は彩光が良く明るい造りで、エアコン・空気清浄機・加湿器で温湿度管理を行い過ごしやすい空間となっている。大きな日めくりカレンダーがあり日付が認識しやすい。廊下に利用者の手芸品や季節の飾りを掲示している。浴室は広く滑りにくい床材を用いている。	当事業所は同法人居宅サービス事業所と併設型の建物で、大小の福祉用具類が、内玄関から階段周りに置かれている。利用者の移動に支障のない環境構成が求められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされることが多い利用者様にはレク等参加して頂ける様声掛けするなど心掛けている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者様が以前より使われていたものが置いてあり、本人ご家族と相談しながら居心地良く過ごせる空間作りをしている	利用者が使い慣れた馴染みの品々を持ち込んでもらい、これまでの生活や趣味ごとが継続して行えるよう設えている。室内で転倒があった場合は望ましい動線を検討し、利用者が安心安全に過ごせる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る事を積極的に手伝って頂き食器拭きや洗濯物たたみ等も進んで行ってくれたり声掛けしたり支援している			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200124		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホームだんらん 2階		
所在地	恵庭市有明町1丁目8番8号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171200124-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの横に綺麗な川が流れ、春には渡りが訪れ秋には鮭が遡上する等自然に恵まれ四季を感じ、入居者様と毎年、楽しみに過ごしています。また、「ゆっくり」「いっしょに」「たのしく」をモットーに、入居者様に寄り添い・出来る事へ参加を大切に日々、元気な明るい職員と共に家事への参加・天気の良い日には周りの花々を見ながら散歩へ行き、近くの公園で近所の小さなお子様と触れ合いを持ち、入居者様の暮らしを豊かに・楽しく過ごして頂けるように支えています。また、ご家族との関係作りを大切に、2ヶ月に1回だんらん新聞を発行し、日常の様子を伝え面会時には、より詳しく様子を伝えるよう行っている。行事の際も、入居者様とご家族の絆を大切に一緒に過ごせる時間を作る工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践ができるように職員間で話し合い日常業務内で実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により買い物・散歩等の対応が困難となり、出来る限りユニット内の行事などで交流を多くもてる様努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り・避難訓練などイベントを通し認知症の人の理解や支援方法を地域の方へ発信していたが、現在はコロナの影響で自粛する事が多かった		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で事業所内の会議開催となっているが、職員間で話し合い議事録や資料を市役所・包括・町内会長へ配布し対応している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取るなどし事業所の実情・ケアサービス・事故報告等を報告し繋がりを維持出来るよう努めている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を通し情報等共有し職員全体でも身体拘束をしないケアについて日頃から話し合いを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から身体拘束や虐待を職員全員が理解し意識をもっている。また、ストレスを溜め込まないようコミュニケーションを図っている		

グループホーム だんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者・相談員が外部研修や資料で学ぶ機会を持ち必要性のある利用者・ご家族が活用出来る様にしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など、利用者様・ご家族の不安に耳を傾け分かりやすく話しやすい雰囲気を作るように説明をしている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に声を掛け会話の中からご意見・要望を伺い報告・改善に努めている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やヒヤリングはなかなか行えていないが日頃から運営に関する職員の意見・提案があった場合は随時聞き運営に反映させている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況の把握をし向上心もてる職場環境・条件について具体的な配慮や工夫が出来る様つとめている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者・職員の力量をおおよそ把握しており、研修等の参加の機会を設けスキルアップしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所や市のネットワークの活動を通じて情報交換を行いサービスの質の向上させていく取り組みを行っている(現在はコロナの影響にて難しくなっている)			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や不安に思っている事に耳を傾け安心と信頼を得られるように努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安やこれまでのご本人の生活や暮らしぶりを伺いどのように支援していただけるか話し合い意向に沿えるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の思いや状況を確認しニーズを把握した上で必要としている支援を見極め対応出来るように努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人と一緒に家事や作業を行ったり日々の会話を楽しむなど暮らしのパートナーとしての関係を築くようにしている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いや考えを尊重し、電話や来訪時にご本人の様子をお伝えしたうえ、ご家族の協力も得ながら共にご本人を支えていけるような関係を築くよう努めている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、今年も思うように対応できずにいるが、面会制限がある中でも電話対応や玄関先にてマスクをつけた上での短時間の会話が出来る様対応している			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや日々の活動と一緒にいたり、間に入り会話する事で交流が持てるように工夫している			

グループホーム だんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の家族からの連絡はほぼないが何かあれば、相談に応じれるように支援している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、面会等を通じ家族の意向や希望等を伺い本人とも日頃の状態や会話の中で思いを汲み取るようにしている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人との会話を通じ生活環境や暮らし方などを把握するようにしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話・日常生活等細かくチェックし記録に記載していくことで把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、本人・家族の意向を聞きスタッフ間で話し合いモニタリングを行うことで良いケアに繋げている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿っての実践が出来ているか気付いたこと等細かく記載しスタッフ間で話し合いをする事でケアプランの見直しに反映させている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	物品購入や移送支援等、相談に乗り柔軟な対応を行うようにしている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で散歩や外出は控えているが、室内でレク等楽しみのある空間作りを意識し支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、それぞれのかかりつけ病院へ通院、または往診してもらい対応を継続している			

グループホーム だんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の健康管理を行い早期発見に努めている。特変がある場合訪問看護の報告・相談し適切な受診やケアを受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護添書を提出し利用者様の情報提供をしている。又、入院中にも情報交換や相談し早期退院に繋げている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し本人・家族と十分に話し合い方針を共有・医療機関との連携しながらチームで取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルがあり確認しているが定期的な学びや訓練は行っていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し夜間・日中想定や火災・地震を想定したり、どの職員も速やかな避難誘導を行える様にしている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの尊厳を配慮し日頃から本人の気持ちに寄り添い声掛けや対応するよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを確認し状態に合わせ自己決定しやすい様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人ひとりの個性やペースを重視し可能な限りご希望に沿えるよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容を手配し希望される方にはカット・パーマをしていただいている		

グループホーム だんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取状況に合わせて提供している。準備から片付けまで参加していただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかりと栄養摂取していただきたく、残されたものの寮・原因を把握している。水分量も把握しコマ目に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや誘導を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しなるべくトイレにて排泄できるよう誘導や声掛けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳を提供しそれでも便秘気味の方へは与薬の調整を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと湯船に浸かっていただき楽しい話や普段聞けない話をしリラックスして頂き個々にそった支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動をし生活のリズムを整えるよう支援している。又、寝室の環境整備も意識し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しどのような持病でどのような薬を服用しているか理解している。また、変更があった場合周知し症状の変化にも合わせて対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理せず体調にあわせ個々の出来る事を支援している		

グループホーム だんらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスのため外出などの対応が不十分になっているが、室内レクや体操など出来るだけ体を動かしたりと支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の困難な方はスタッフが管理し買い物・支払いを代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルーム設置の電話は気軽に使用出来るようにしている。ご家族にもその事を電話でお話ができる様支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や日常生活等の作品を貼ったりして季節感を感じてもらったり思い出しながら楽しんでもらえるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽やテレビを見てもらったりゆっくりお話ししたり、お花を見たりとくつろげる空間を作るようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、思い出の写真を飾るなど個々に合わせ落ち着いて暮らせるよう配慮・工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けの仕方や援助方法を話し合い自室・トイレ等も分かりやすく表示し少しでも自立した生活が送れるように工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホームだんらん

作成日：令和 5年 1月 15日

市町村受理日：令和 5年 1月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の一部にある「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」では、利用者支援のみならず、職員同士においても当てはめ、構築していきたい文言としている。理念が関係者全体のものとして成長するように期待したい	再度職員全体で理念の共有を行い、理念と向き合い同じ方向性を持った介護が行えるよう取り組みたい	①外部評価の振り返りの際に再度全体で理念を共有し、確認を行う。また、定期的に理念にそった話し合いができるよう会議の開催も行っていくようにする	1年間
2	4	書面開催にあっても双方向のやり取りになるよう、議事や運営への意見等を聴取する仕組み作りに期待したい	何か一つでも意見やアドバイスをもらえるような工夫をしていきたい	①議事録送付の際、意見や質問をもらえるような文言をいれ対応していく	1年間
3	35	自然災害の訓練等に期待したい。BCP策定では市や消防署から最新の情報や知見、運営推進会議で報告することにより新たな視点を確認できる事も考えられる。今後の策定に向け期待したい。災害時・緊急搬送時の経路確保が求められる	BCP策定に関しては法人で話し合い策定を進めていきたい。また避難経路は想定しているが、より具体的な対応が出来るように考えていきたい	①BCP策定については法人と相談しながら策定をすすめていく、また以前避難経路などは検討していたが車両や物品などの確認、避難方法なども全体で相談していく	1年間
4	36	言葉のトーンや語調について利用者の尊厳に対して適切か否かを今一度、事業所全体で確認する意向であるので期待したい	理念の共有と共に利用者様への声掛けなど見直し改善していきたい	①理念共有と同様、定期的に不適切な対応がないか全体で気を付けていけるよう話し合いの機会を設ける	1年間
5	52	当事業所は同法人サービス事業所と併設型の建物で、大小の福祉用具類が、内玄関から階段周りに置かれている。利用者の移動に支障のない環境構成が求められる	法人に報告し対応を行いたい	①法人に伝え、福祉用具の保管場所など定めていただけるようにしていく	1年間

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。